農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

倉吉市長 広田 一恭

市町村名 (市町村コード)	倉吉市 (312037)	
地域名 (地域内農業集落名)	河北地区、上灘地区、成徳地区 (清谷、清谷1丁目、清谷2丁目、福庭町1丁目、福庭町2丁目、福庭、海田東町、海田東町、南町、海田西町1丁目、海田西町2丁目、河北町、大平町、天神町、上井、上井町1丁目、上井町2丁目、海田、福庭、清谷下田中町、円谷町、米田町、米田町2丁目、新陽町、駄経寺町、駄経寺町2丁目、上灘町、幸町、昭和町1、2丁目、南、東昭和町、東巖城町、巖城、見日町、三明寺西、三明寺東、田内、下田中、円谷、米田、駄経寺住吉町、湊町、東町、葵町、倉吉西部、倉吉東部、福吉)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月30日 (第1回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
 注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

河北地区、上灘地区、成徳地区は倉吉市の中心に位置し大部分が用途区域に指定されている。住居や商業用建物、工業用施設などが数多く建ち並び、その中に小規格の農地が点在している。認定農業者などの担い手もならず、点在する農地では外から担い手を受け入れる事も難しいため水稻を基本に土地所有者で農地を守ってきた地域であるが、近年は農家の高齢化や農業離れにより、農地の維持管理が困難となっている。また、最近では都市部においてもイノシシなどの鳥獣被害があるため、個人での対策に頭を悩ませている。水路や農道などの農業用施設は各地区の土地改良区が中心となり必要最低限の維持管理を図ってきたが、今後の営農方針を見据えた大規模改修の検討も必要である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

今後も引き続き各個人で水稻を中心とした農業を展開し農地を守っていくことになるが、条件の良い農地は積極的に地域外の担い手に働きかけて農地の維持管理に努める。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	144.6 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	144.6 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針 農業委員を中心にきめ細やかな相談・調整体制を堅持する。 地域内外の担い手へ積極的に農地の貸し出しを図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針 地域全体の農地を対象に農地中間管理機構を活用して、積極的に担い手農家へ農地集積を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針 各土地改良区、水利組合を中心に必要性の高いものから事業効果などを踏まえ検討する。 各集落の農事組合を中心に軽微な補修を行い、維持管理に努める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針 倉吉市、鳥取県、JAと連携しながら、地域内外から多様な経営体を募集する。特に新規就農者に対しては、農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

<p> </p>